



Vol.6 田植え編

【2018.5.9】

蒲生地区の田んぼでは、ゴールデンウィークから本格的に田植えが始まり忙しそうに田植えをする光景がみられます。

代掻きと苗渡しとほぼ同時進行で、ゴールデンウィークから本格的に田植えが始まっています。各生産者さんの田んぼでは、田植えをする姿があちらこちらで見られるようになりました。田植えは、ゴールデンウィークから5月中旬にかけてピークを迎えます。生産者さんによっては、今でも家族総出で田植えをしています。昔と変わらない蒲生の田園風景を見ることができ、ほっとする風景でもあります。ゴールデンウィーク中は、雨降りの日もありましたが、概ね天候に恵まれ、順調に田植えをすることができたようです。雨の日の作業は、稲苗が傷んだり、田植え機の故障等の原因となります。天候に作業の進み具合が左右されるので、この時期は天気予報が大変気になりますね。

また、蒲生地区にある各小学校では、食農教育の一環として、毎年田植え教室が行われます。各地域の生産者の方やJA職員が教室開催に協力し、小学生に田植えの仕方を教え、実際に田植えを体験してもらっています。最初は、田んぼに入って足が泥でヌルヌルして嫌だという子もいますが、それもすぐに慣れてしまい、田植え体験が終わり感想を聞いてみると口々に「田植え楽しい!」と笑顔で答えてくれました。普段なかなか農業に接する機会が少ない子供たちも多い中、この田植え体験を通じて農業の大切さや楽しさを感じて、興味や関心をもってもらえると嬉しく思います。なお、秋には稲刈り体験も予定しています。

今後も「食」を支える根本である農業に関する知識・体験を含んだ「食農教育」の大切さを地域の方々と伝えていきたいと思います。



↑ 田植え機で田植え作業中



↑ 田植えされた田んぼの様子



↑ 田植え教室開催の様子